Personal MBA

黒田インターナショナルコンサルティング LLC
黒田　毅

合理主義という新たな先例は、黒船というグロ―バリズムの洗礼であり、今日の社会転換における現実である。

これら今日の変化は、西洋における合理主義と理想が、新たな未来を模索するものであることは理解できる。

全ての存在は必ずその未来を希求するものである。西洋の人道主義に依存し、既得権益の保護を求めることはそれらの許容において不可能であり、合理主義というグローバルスタンダードにおける企業経営が企業における唯一の選択である。

これらは日本独自の社会の維持における既得権益という現実が、合理主義の下、崩壊しているのが今日の現実なのである。

これら日本独自の社会システムの維持という、トランプアメリカ大統領が伝える、非関税障壁は、日本の独自社会システムの維持を求めるものであるが、これら現実はグローバリズムという潮流において今日その維持永続が困難なのである。

これらは企業における選択においてそれら合理主義という選択は不可避の現実であり、最もシビアな企業経営は、新たな利益基準という市場の現実への参加の条件である。

これらは一部上場企業は、完全に日本の既得現実を離れるものであり、彼らのビジネススタイルは、グローバリズムの完全な受け入れとともに存在するのである。

これらはアベノミクスにおける結果であることは理解されるべきである。また低金利政策の下、国内資金が海外へ流出することは、金融経済の国際化を与えるものなのである。

これらは今日の社会転換が、既存日本社会のシステムから、グローバルスタンダードへの転換を模索するものであることは理解されなくてはいけない。それらは合理主義という世界の現実への転換なのである。